

第4回 富山地震防災研究会セミナー(第2部) 記録

日時：2019年7月29日(月) 18h~20h
会場：富山県立大学環境工学棟3階会議室
参加者：11人(it, uchi, ooi, kaw, to, hatt, fur, hosh, mats, mor, 学生)
第二部 19h-20h
講師：hatさん(防災ネットワーク)
題目：急傾斜地施設の長寿命化検討

第二部 急傾斜地施設の長寿命化検討

By 八田

1. プロフィール

土木技術者として設計や施工の仕事をこなす。

1.1 資格取得

一級土木施工管理技士、測量士、
技術士(建設部門：河川、砂防及び海岸)
技術士(総合管理部門：建設一河川、砂防及び海岸)
ほか、多数

1.2 実務の紹介

河川：河道計画、河川整備計画、河川環境整備計画、
排水機場、樋門樋管、取水堰など。

砂防：土砂流出計画、砂防施設配置計画、
堰堤改築・更新、各種マニュアル策定など

海岸・海洋：
防潮堤、港湾施設長寿命化調査など

防災：防災訓練、危機管理マニュアル作成、
避難所や災害弱者施設の土砂災害危険度調査など

環境関係：
ダムや道路の建設に伴う周辺環境調査、
親水公園、魚道実験、多自然型川づくりなど

道路関係：
落石対策、法面对策、道路防災点検など

2. 急傾斜地施設の特徴(砂防施設との違い)

2.1 主部位、付属部位の関係

構造や形状が多様。
主部材や付属部位の組み合わせ多様。
施設周辺斜面の変状も問題になる。

2.2 施設単位

評価する単位を個々の施設、地区とすることも
あるが、連続する同構造の施設で完成年度が
5年以内の施設群とする。

3. 点検調査

3.1 損傷レベル

a,b,cl,chの4段階で、clとchは要対策レベル
で緊急性はchが高く、chの部位は概ね5年以内
に対策が必要なレベル。

3.2 健全度評価

A,B,CL,CHの4段階で、複数の施設が組み合
さった施設単位においては、主部位が最も悪い損
傷レベルで決定される

(最も悪い主部位の損傷レベルが「b」であ
れば「B」、「ch」であれば「CH」となる。

4. 対策工法選定

4.1 急傾斜地施設であるために起こった問題

- (1)家屋との離隔：家屋との隔離距離が2mないと擁壁工事は不可能。
- (2)空きポケット量：待受け式擁壁では十分なポケット量の確保が必要。
- (3)施設の組み合わせ：斜面、法面工、擁壁工と上下施設の組み合わせを考慮することが必要。

4.2 対策事業の区分け

- (1)公共事業：緊急改築事業、新規事業
- (2)県単事業：維持修繕費、緊急対策事業要件を満たさない機能Upとなる改築

5. 富山県急傾斜地防止施設の状況

県内311地区、2412施設数

6. 事業費縮減効果の検討

急傾斜施設の耐用年数は45年で延命年数は35年と仮定しているが、最も古い施設でも築50年を経っていないので耐用年数と延命年数は、今後の調査結果で再検討する。

7. 討論

・急傾斜地のメテとして改築、補修工事は永遠と続いている。特に氷見地域に対象急傾斜地が多い。
・コンパクトシティ構想で取り残される地域においても急傾斜地への対処は必要である。
・危険地域の宅地化が問題。とはいえ、都市化による危険地域の開発が余儀なくされている。
など白熱した議論が続いた。

◆ 概要版は後日に、とのこと。 (by 事務局)